

連邦国家会議への法案提出」などが規定されている。

◆本会議場にて

応接室での意見交換の後、議長に本会議場を案内してもらいました。議場はアイボリー色を基調としており、荘厳な様相を呈していました。2階バルコニーは一般市民の傍聴席であり、本会議場の議員席の後ろには事務局職員用の席が50席程度用意されていました。夏の白夜の時期などに採光を調節する必要があるため、天窓にはカーテンがかかるようになっていました。



サンクト・ペテルブルグ市議会議場にて

◆2月7日付のイタルタス通信に、次のような記事が掲載されていました。

「チュルパノフ市会議長は足高将司大阪市会議長を歓迎し、特にトヨタ自動車工場開設に象徴される経済、文化面における露日間の関係発展に満足の意を表した。この工場開設によって高品質の車が製造されるのみならず、高い専門能力を有する労働者の雇用機会が増加することとなる。また、チュルパノフ議長は、2003年に実施されたサンクト・ペテルブルグ市の300周年祭に大阪からの代表団が参加したことについて、足高議長に感謝の意を表した。また、チュルパノフ議長は、サンクト・ペテルブルグ市議会の制度についても説明した。足高議長は、チュルパノフ議長による温かいもてなしに謝意を表し、昨年暮れに選出されたばかりの大阪市の新市長からチュルパノフ議長に対する親書を手渡し、今後の両都市間の友好関係の強化について話し合った。会談の参加者たちは別途、サンクト・ペテルブルグ市と大阪市の観光交流の発展についても協議した。」

在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館

午後6時 在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館を訪問。サンクト・ペテルブルグ市行政庁、市議会でお世話をいただいた城所総領事、内田首席領事、吉永副領事と意見交換を行いました。

冒頭、今回のサンクト・ペテルブルグ訪問にあたり総領事館に多大なご協力をいただいたことに謝意を表しました。

また、大阪市では本年 6 月 13 日・14 日にサミット財務大臣会議が開催されることになっており、2006 年にサンクト・ペテルブルグで開催された G 8 サミットの開催状況などについて、お話を伺いたい旨述べるとともに、来年は、姉妹都市提携 30 周年を迎える大変喜ばしい節目の年でもあり、両市の国際友好交流がますます発展することを祈念する旨申し添えました。



在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館応接室にて

城所総領事からは次のような説明を受けました。

- ・日本の地方自治体は、アメリカ、中国とは多くの姉妹都市提携を有しているが、これに比べてロシアの都市との提携は少ない。地理的条件、歴史的関係を共通にするものが中心である。交流を実施するに際しては、交流を求める意欲のほかに財政問題が大きな障害となるが、日露の場合、これまでは必ずしも財政的に同等の基盤に立った交流が行われず、日本側の持ち出しになるケースが多かったようだ。
- ・サンクト・ペテルブルグの人々の日本に対する関心は高く、日本と交流したいという意欲を持っている人たちがとても多い。特に露日友好協会など日本との友好関係増進と文化交流に努めている団体もある。
- ・来年、大阪市とサンクト・ペテルブルグ市は姉妹都市提携 30 周年を迎えるということであり、周年記念事業をはじめとして、さらなる交流促進をお願いしたい。

さらに、在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館が、露日友好協会などともタイアップしながら実施している事業として、2008 年には次のようなものが予定されているとの紹介がありました。

2008 年「日本の春」関連イベント

- ・国際交流基金巡回展「現代日本の工芸展」

(日本国総領事館、エルミタージュ美術館共催)

- ・豊田バレエ団公演、書道デモンストレーション、華道「花の道」

- ・サンクト・ペテルブルグ国立大学日本語学科創立 110 周年記念学術会議
- ・和菓子レクチャー&デモンストレーション（日本国総領事館・レストラン「マツリ」）
- ・日本通運主催「サンクト・ペテルブルグ日本文化フェスティバル」
- ・総領事杯囲碁大会（サンクト・ペテルブルグ囲碁連盟・日本総領事館）
- ・ジャパニーズ・ファッション・ウィーク
- ・芸術の夕べ「日本のイメージ」写真展、着物着付け、ファッションショー、こけし、いけばな
- ・人形劇「鶴の恩返し」
- ・エルミタージュ劇場音楽公演プロジェクト「四季」
- ・サンクト・ペテルブルグの芸術家、デザイナーによる工芸展「桜の花びら」
- ・茶道デモンストレーション（サンクト・ペテルブルグ茶道研究クラブ主催）
- ・サンクト・ペテルブルグ日本語弁論大会

また、2006 年にサミットが開催された際の状況については次のような説明がありました。

- ・サミット開催時には、警察官が各都市からの応援を含めて 1 万人以上が動員された。ブルコボ空港は、国際線、国内線ともサミット期間中は完全封鎖された。また、サミット会場に面したフィンランド湾はサミット前日から 4 日間、船舶の航行が禁止された。空港～コンスタンチン宮殿地区の移動はすべて車列で行われ、人家のない専用道路を通行した。このため、サンクト・ペテルブルグ市内を経由せずに直接会場に着くことができた。
- ・サンクト・ペテルブルグ市は、2003 年の建都 300 周年記念行事で 50 カ国の首脳を受け入れた実績がある。この点、サミット誘致に対しては優位性があったのではないか。これを機にコンスタンチン宮殿など歴史的建造物の修復が図られるとともに、まちの景観向上を図るなど、サミットにふさわしいまちづくりが推進された。
- ・サミット関連経費としては、約 110 億ルーブル（約 400 億円）。半分が空港・道路の改修、半分が会合関連経費。初日の非公式夕食会を除き、公式、非公式会合はすべて宮殿の中で開催された。

最後に、私の方から、市議会でヤグジャ副議長から話のあった海遊館の件については、積極的に話を進めていきたいと考えているので、総領事館の方からのお力添えも頂戴したい旨発言しました。また、過去には天王寺動物園へのホッキョクグマ誘致に際して、サンクト・ペテルブルグ動物園に協力依頼したが実現できなかった経過があるが、今回は是非実現させたいと考えており、この点についての総領事館の協力もお願いしました。

2月8日（金）

エルミタージュ国立美術館

午前 10 時 30 分の開門を待って、エルミタージュ美術館に入館しました。

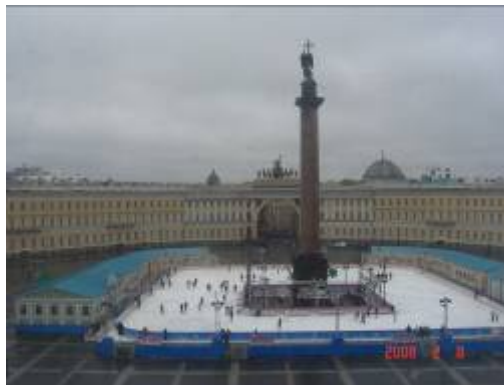
エルミタージュ美術館はエカテリーナ 2 世の宮廷博物館として 1765 年に建設されました。

「エルミタージュ」とはフランス語で「隠れ家」を意味します。

エルミタージュ美術館は冬宮（ロマノフ王朝歴代皇帝の宮殿）を中心とした次の 5 つの建物が廊下で結ばれ形成されており、エルミタージュ美術館のこれらの建物は 18 世紀半ばから 19 世紀半ばにかけて約 100 年間かかって完成されました。

- 小エルミタージュ（建設 1764～1775）
- 旧エルミタージュ（建設 1771～1787）
- 新エルミタージュ（建設 1784～1864）
- エルミタージュ劇場（建設 1783～1786）
- 冬宮（建設 1754～1762）エルミタージュ美術館本館

全部で 1,050 の部屋を持ち、2,000 の窓、120 の階段があります。部屋の総面積は 46,000 m²にも達するということで、当初エルミタージュ美術館は王侯貴族の収集品を収めるだけで、一般向けの開館はしていませんでしたが、19 世紀末に一般向けに開館しました。エルミタージュ美術館が誇る膨大かつ貴重な絵画・美術品は現在 300 万点以上を数えており、大英博物館やルーブル美術館にも劣らない世界屈指の美術館です。現在展示されている美術品は約 7,000 点です。（後掲比較表を参照）



エルミタージュ美術館から参謀本部を望む（宮殿広場はスケートリンクに）

◆エルミタージュ美術館の特徴

第 1 の特徴は、ここが歴代皇帝の住まいであったということ。

実際にこのエルミタージュ美術館の中で、エカテリーナ 2 世をはじめとする歴代皇帝が生活をしていました。

第 2 の特徴は、ここは極めて政治的な場所であったこと。

1905 年 1 月の冬宮前広場での「血の日曜日事件」、1917 年の 2 月革命後のケレンスキー

政府の拠点、1917 年 10 月革命ではボリシェビキ革命軍が突入し、臨時政府の閣僚を逮捕した場所でもあります。

◆視察の目的

大阪市では博物館群の一元管理による運営形態の見直しが喫緊の課題であり、効率的な運営と経費削減を前提にサービス向上を図ろうと努めています。

エルミタージュ美術館は、その規模において世界的に名高い美術館であり、その所蔵物は、西洋・東洋美術、遺跡出土品、宝石、貨幣に至るまで広範囲に及んでおり、これを大阪市に置き換えると、大阪市立美術館、東洋陶磁美術館、歴史博物館などに加えて音楽団までも一元管理している姿になります。

特に、エルミタージュ美術館は、その建造物が宮殿であったことから歴史的、建築学的見地からも他を圧倒しており、世界的に名高い巨匠達の作品が、さりげなく展示され、入館者は自由に、広い面積と多様な作品群から好みに応じて鑑賞できるのも大きな魅力となっています。

250 年の長い歴史に培われたこの美術館を維持し、将来に引き継ぐため、この美術館にどの程度の予算を配し、職員を充てているのかは各種公表資料でもつまびらかではありませんが、この美術館の視察は、大阪市が直面する博物館群のあるべき姿を考えるうえで、その成功例のひとつとして参考になるものです。



エルミタージュ美術館副館長らと

◆意見交換

事務室入室の特別許可を得て、副館長らとの意見交換の機会を得ました。

(対応者)

スベトラーナ・アトラクシナ 副館長（主任学芸員）

ナタリア・コズロワ 東洋課長

マリアンナ・ダンダマエワ 学芸担当

(質問) エルミタージュ美術館の運営にあたり、工夫されている点、苦慮されている点な

どがありますか。

(回答) ステータスを守ることが必要。そのためには、文化人をはじめたくさんの人に来ていただくことが必要で、美術館のイメージアップをどのように図るか、PRするか、集客力を高めるかが重要である。

(質問) 大阪市立美術館の年間入場者は、約 60 万人（本館(特別展・常設展)で約 40 万人、美術団体公募展(地下展覧会室)が 20 万人)。年間約 3 億円の経費の約 50%は税金でまかなわれています。これに対して、エルミタージュ美術館は、年間 370 万人といわれており、海外からの来館者も多いと聞く。海外に限らず、来館者を多く迎えるために、どのようなサービスがあるのでしょうか。

(回答) 団体客は事前の予約が必要であり、Excursion Bureau が事前予約を担当している。夏の観光シーズンは特に入場者が多い。フィンランドからのクルーズ船を運航させている旅行社とエルミタージュ美術館との間で契約を締結し、美術館を観光ルートに組み込んで集客に努めている。特別な関係にあるお客さんには、Early entrance（正規の開館時間よりも早く入館できる）という制度がある。学校から見にくるケースも多く、たくさんの小学生らを迎え入れている。美術・歴史のサークルもある。ミュージアムショップは違う会社が経営している。直営でやっているのは書籍の販売だけである。

(質問) 特別展はどのように運営されているのでしょうか。

(回答) 3 年間のスパンで特別展のプランニングを行っている。特別展を担当する委員会もある。委員長は、もうひとりの副館長が担当している。エルミタージュに関する特別展とそれ以外の外国からの特別展がある。出展についてはオファーが多い。スケジュール調整、準備期間も必要であり、できるだけ早く申請してもらう必要がある。国立美術館であるため国家機関の承認も必要である。特別展は、ヴァシリイ島メンシコフ宮殿にある別館で行われている。日本のコレクションは長い間展示されていなかったが、近いうちに展示する予定。

(質問) 来年、姉妹都市提携 30 周年を迎える。これまで大阪ではエルミタージュ美術館展が 2 回開催されています。日本でエルミタージュ美術館の特別展が開催される予定はあるのでしょうか。

(回答) 詳細は未定であるが、エカテリーナ 2 世が収集した陶磁器の展覧会が予定されている。

(質問) エルミタージュには、300 万点の美術品があるが、常設展示されている作品は 7,000 点ということですが、倉庫に保管されている作品の中にも素晴らしいものがたくさんあると思います。活用方法は検討されているのでしょうか。

(回答) 全部で 300 万点ある美術品の中には、勲章のような小さなものもある。考古学関連のものもある。絵画、彫刻など展示の対象となるものは全体の 25%程度である。倉庫に保管している美術品の活用も考えなくてはならない。サンクト・ペテルブ

ルグ郊外に新しい倉庫があり、資料センターとなっている。ここは陳列室にもなっており、予約すれば保管されているものを見ることが出来る。普通の美術館とは異なり、密度が高い。通路の両サイドに展示コーナーがある。

ミハイロフスキー城（財務大臣会合開催場所）



ミハイロフスキー城正面玄関にて

午後4時、財務大臣会合開催場所であったミハイロフスキー城を視察しました。ここは、2006年6月9日・10日にG8サミット財務大臣会合が開催された場所であり、石油を含むエネルギー問題を中心に議論が交わされました。

1990年代初頭から、国立ロシア美術館の分館として使用されており、現在では、肖像画のギャラリーとして、ロシア皇帝、皇后の公式肖像画や17世紀後半から20世紀前半の彫像に関する常設展示会が行われています。

ミハイロフスキー城はロシア皇帝パーヴェル1世の宮殿として1797年から1801年にかけて建設された建物で、パーヴェル1世が暗殺された場所としても有名です。



財務大臣会合が行われた大広間にて

露日友好協会

午後 7 時、露日友好協会を訪問しました。2009 年の姉妹都市提携 30 周年記念事業についての意見交換を中心に行いました。

(対応者)

ルイボフ・ジニーナ 名誉理事長

アレクサンデル・フィリポフ 副理事長（サンクト・ペテルブルグ大学東洋学部極東・日本学博士）

ナタリア・マクシモワ 理事（「日本の春」で毎年個展を開く画家）

ニーナ・ズヴェトゥコワ 事務局長（約10年にわたり協会に勤務）

イゴール・パヴロフ 露日貿易投資振興フォーラムサンクト・ペテルブルグ支部長

冒頭、私の方から、「日本とロシアにおいては、エネルギー分野を中心に様々な経済分野で交流がなされており、日本企業の進出も拡大傾向にある。また、文化交流をはじめ各種の交流事業が展開されている。特に、大阪市はサンクト・ペテルブルグ市と 1979 年に姉妹都市提携を行い、これまで様々な分野で交流を深めることができたが、来年は姉妹都市提携 30 周年を迎える大変喜ばしい節目の年でもあり、両市の国際交流がますます発展することを願っている。」旨あいさつしました。

サンクト・ペテルブルグの露日友好協会は、日本文化の紹介と露日の交流を促進するため、40 年以上にわたり活動を続けており、大阪の露日協会とも協力関係にあります。露日友好協会では、総領事館の協力も得ながら「日本の春」フェスティバルを毎年主催しており、日本の伝統文化の紹介を行っています。

ジニーナ名誉理事長からは、「サンクト・ペテルブルグ市民の日本に対する関心は非常に高く、日本語を勉強したい人がたくさんいる。茶道も勉強したい人がたくさんおり、ライセンス取得を目指している人もいる。いろんな機会をとらえて交流し、大阪の PR も行いたい。サンクト・ペテルブルグの美術館はエルミタージュだけではない。クンストカメラという珍しいものばかりを集めた博物館もあるので、是非紹介してほしい。」といった発言がありました。

また、他の理事からは、「大学や芸術関係のクラブに協力してもらって、サンクト・ペテルブルグのことを大阪でも紹介してもらえればありがたい。大阪市立大学とサンクト・ペテルブルグ大学の学生の交流ももっと活発になればと期待している。」と述べられました。

去年の「日本の春」フェスティバルでは、子どもたちがエルミタージュ劇場を使って、音楽にあわせてスクリーンにいろいろな日本に関する絵を映し出すようなイベントが行われたということでした。また、子どもたちは短歌、俳句などにも興味を持っているとのことでした。

「日本でサンクト・ペテルブルグに関する交流イベントが実施される際には、子どもたちが日本を訪問し、大阪の子どもたちとの交流ができればよいと考えている。子どもたち

の絵画や作品を展示することも考えている。先生同士の交流もよいことである。大阪をあまり知らない人、サンクト・ペテルブルグをあまり知らない人がもっと関心を持てるようにPRすることも必要で、例えば、地下鉄の中にポスターを貼るなどしてキャンペーンすることも一案である。日本の食文化といえば、寿司のイメージが強いが、そのほかにもおいしいものがたくさんあると思う。そうしたことももっと紹介していきたい。」との発言もありました。



露日友好協会の人たちと

露日友好協会からはいろいろな意見や要望をいただいたので、私の方からは次のように総括してお話をしました。

「素晴らしいアイデアをたくさんいただいた。ソフト面、ハード面を問わず、大阪市として何と何ができるかを精査する必要があるが、具体的な案が提示された段階で大阪市の担当部局ともつなぎたい。それぞれの市が行う事業に要する費用はそれぞれが負担するという原則を崩すことはできないが、これまでどおり事業に関してはできるだけの協力をし、相互交流を深めたいと考えている。今までの周年事業のやり方としては、行政、議会、民間（経済界）のミッションが共同で動くケースが普通であり、今回もそのような形になると思う。」

また、大阪のPRという点では、大阪ファンクラブに入会していただければ、大阪の最新の情報をお届けすることができる旨も付け加えました。

2月9日（土）

サンクト・ペテルブルグ植物園（ロシア科学アカデミー・カマロフ学会植物園）

午前11時、サンクト・ペテルブルグ植物園を訪問しました。冒頭、ユーリイ・レルゲヴィッチ・スミルノフ植物園長から次の説明を受け、その後、植物園温室内の案内を受けました。



サンクト・ペテルブルグ植物園温室にて

- ・サンクト・ペテルブルグ植物園は、ペトログラード側（サンクト・ペテルブルグ市街からネバ川を隔てた対岸）にあるロシアで最も古い植物園の一つであり、ピョートル大帝の指示により 1714 年に設立された。設立されてからまもなく、採集植物の規模とその重要性において園芸研究センターとなった。当初は主に薬草の栽培を中心としていたが、その後 1728 年には珍しい熱帯植物を中心とする外来の植物の種と若木を育てるために温室がつくられた。皇帝からのサポートを得て予算も拡大したことから世界各地への遠征によって新種の木・低木・花等の植物を取得し、植物園の規模も大きくなっていった。総面積は 23ha（温室：1,100 m² 公園：16ha）。温室は口の字型の回廊の形状をなしている。80 人の職員が勤務している。
- ・現在は、ロシアの温帯域からの植物はおおいのなままで栽培され、数々の温室の中では多数の熱帯・亜熱帯植物が存在している（15,000 種類以上の植物のうち 8,500 種類が熱帯・亜熱帯植物）。この植物園の「アルプス・ヒルズ」ではコーカサス山脈・地中海及びアジアからの植物相が存在している。このほかに、多くの種類のシダ・ヤシ・竹・針葉樹・蘭など中国及び日本の植物が集められている。夏には温室内の池に大スイレンが咲き、葉っぱは直径 2 メートルにも達し、60 キログラムまでの重さを支えられるということである。温室内には、松や楓、ツツジ等日本で植生している植物を集めて造成した小さな日本庭園が存在する。
- ・第二次世界大戦の間、採集した植物がひどく損傷され、珍しいヤシ・シダ・サボテン等が枯れてしまったが、大戦後に採集植物が補充され、現在は世界各地からの豊富な植物が存在する。
- ・植物園では、植物採集・幅広い調査研究が行われているほか、花づくり活動等の啓蒙活動も実施されている。子どもたちを対象とした見学や専門家によるセミナー、ボランティア活動も行われている。アメリカ、ドイツなど様々な国と研究者の交換などの交流が図られている。ハンブルクと共同して新しいコレクションのための探検隊をシベリアへ派遣するなどしている。

スミルノフ園長から大阪市との将来的な交流活動についての意見を求められたので、「大阪にもいくつかの植物園があるが、長居植物園は学術研究機関ではなく、市民への都市緑

化の普及啓発やレクリエーションに寄与させるための都市緑化植物園として位置づけられている。大阪の植生の歴史的変遷やボタン園やバラ園、街路樹見本園など都市緑化植物の展示を行っている。2001 年 4 月に長居植物園内に設置された「花と緑と自然の情報センター」では緑化の市民への普及啓発、都市緑化に対する情報提供、緑化相談などが行われている。将来的な交流活動に関しては、種子交換や、根を洗浄して輸出可能な植物の交換、植物に関する情報交換は可能である。また、両植物園の目的が合致した際には相互訪問も可能である。学術研究という観点からは、大阪市立大学理学部附属植物園の方が趣旨には適合するのではないか。来阪されたときに詳細をお聞きいただきたい。」旨回答しました。

私が訪問した後の 2 月 22 日から 28 日まで同所長が外務省の招聘により日本を訪問し、日本の植物専門家や庭園専門家との意見交換を行いました。26 日には大阪市の咲くやこの花館、長居植物園を訪問し、大阪市立大学理学部附属植物園長との意見交換も行われました。

コンスタンチン宮殿（G 8 首脳会合開催場所）



コンスタンチン宮殿にて

午後 4 時、2006 年 7 月 15 日（土）～17 日（月）に G 8 首脳会合が開催されたコンスタンチン宮殿を視察しました。

コンスタンチン宮殿は、サンクト・ペテルブルグ市中心部から西へ 15km のストレリナ村に位置するロシア大統領府の迎賓館で、18 世紀初頭、フランスのヴェルサイユ宮殿を超える大宮殿を築こうと企図したピョートル大帝により建設着手されました。宮殿は第二次世界大戦により破壊され、長らく部分的な復旧にとどまっていたが、2003 年のサンクト・ペテルブルグ建都 300 年を機に、プーチン大統領の命により 1 年半という驚異的な工期で再建されました。

宮殿周辺には G 8 首脳会合用のネゴシエーション・パビリオンと 20 のコテージも建設されました。宮殿からパビリオンまでは約 500m、宮殿からフィンランド湾までは約 800m で、

敷地総面積は約 180ha です。

G 8 首脳会合主会場となったのはネゴシエーション・パビリオンですが、私が視察したコンスタンチン宮殿内には次のような施設がありました。

マーブル・ホール (320 m²) : アウトリーチ参加国 (議題に応じて議長国が招待する国や地域) との首脳会合、ジュニア・サミット参加国代表との懇談が行われた場所

ミアンダー・ホール (30 m²) : G 8 ワーキングディナーの会場

オーバル・ホール (120 m²) : G 8 ワーキングランチの会場

ブルー・ホール (350 m²) : アウトリーチ参加国とのワーキングランチの会場

ベルデール : 2 国間首脳会談が行われた部屋 (プーチン大統領と小泉首相との首脳会談もここで行われた) で船室をイメージしている

また、これら以外にも、2 国間の非公式の会合が開かれた小部屋をいくつか見学することができました。宮殿内のテーブルなどにはサント・ペテルブルグ産の部材が使われていました。

現在、コンスタンチン宮殿は会議等のための一般利用にも供されているということでしたが、見学をするには特別の許可が必要で、入場門である管理棟において金属探知機等による厳重なセキュリティーチェックが行われていました。



ブルー・ホール (一番広いホール。互いに向き合う窓と鏡が連続している)



ベルデール (2 国間首脳会談が行われた)